

日本大学芸術学部



校友会報

平成30年10月発行
2018年秋季号

101

C O N T E N T S

日本大学芸術学部校友会 各支部の皆さまへ ……3	宮城江古田会「第2回アートフェスティバル・東北」
第12回日藝賞記念講演	/ 熊本江古田会総会 …… 12
片渕須直氏 ……4	第19回宮崎江古田会総会開催 / 北海道江古田会総会 … 13
平成30年度芸術学部校友会総会・懇親会 ……7	新潟江古田会総会 …… 14
皆さん今日は! …… 8~10	江古田会各支部連絡表 …… 14
福岡江古田会 アート展と総会 …… 10	学科ニュース …… 15
佐賀江古田会総会 / 山形江古田会総会 …… 11	編集後記 …… 19

江古田校舎

日藝祭

2018 [平成30年]

11/2(金) 3(土) 4(日)

OPEN!

校友会カフェ “ギャラリー”



“写真で綴る”
江古田と
日藝の歴史

カフェ
&
交流ゾーン

校友会員
作品
ギャラリー



卒業生の皆様のお越しをお待ちしています!

お車でのご来校はご遠慮ください。

日本大学芸術学部校友会

各支部の皆さまへ

芸術学部校友会の皆さまには、平素より多大なるご理解とご協力、ご支援を賜り、学部教職員を代表し、心より厚く御礼申し上げます。

学部長を拝命し1年が経ちました。いまだに多くの事件や問題に遭遇しています。これも私の役目だと考えて、常に前向きに問題解決と名誉回復に取り組んでいます。皆さまには多大なるご心配をおかけしていることに、改めて心より深くお詫び申し上げます。

日本大学は来年、創立130周年を迎えます。そして、芸術学部は、現在2つに分かれているキャンパスが、来年江古田の地でひとつになります。そして、2021年には芸術学部創設100周年を迎えます。皆さまの思い出深い日藝が100年という大きな節目を迎えます。

日藝のキャッチフレーズである“8つのアート1つのハート”は、芸術やエンタテインメントを目指す学生たちが、多様性と共通性の中で共に未来へ向かう姿勢を表したメッセージです。そして、芸術総合学部として、自主性を重んじ、学科の壁、それぞれの領域を超えた学びから、「化ける」学生を育成し、新しい芸術・文化を創造するために、世界を「化けさせる」ことができる人材を排出し続けてきました。

私は、次の100年に繋げるために校友会の皆さまと共に、日藝のプライドとブランドを守るために、これからも日々努力を重ねて参ります。

日藝は、校友の皆さまのご活躍がブランドです。

校友会の皆さまにおかれましては、今までと変わらぬご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本大学芸術学部長

木村政司

第12回日藝賞記念講演

「作品を「誰か」に届けるために必要な事」

片瀨須直氏

アニメーション映画監督、片瀨須直氏の講演会が7月3日、江古田校舎EB2教室にて開催された。

片瀨氏は1960年生まれ、1983年映画学科映像コース卒業。在学中から宮崎駿監督の「名探偵ホームズ」の脚本家として参加。「魔女の宅急便」の演出補、「名犬ラッシー」で初の監督、その後、長編アニメーションとして「アリーテ姫」、「マイマイ新子と千年の魔法」などの監督をつとめた。

「この世界の片隅に」ではアニメーションの監督としては史上初となる

ブルーリボン賞監督賞をはじめ、多数受賞。2017年文化庁長官表彰(国際芸術部門)を受ける。

2006年から日本大学芸術学部非常勤講師(2018年からは特任教授)。2013年からは東京藝術大学大学院でも非常勤講師を務める。

日藝賞受賞は光栄に思っていますしすごく嬉しいです。賞をもらって嬉しい、というか賞をもらうくらい僕という存在がたくさんの人の耳に届いた、ということが嬉しいのです。

その何が大事かという、自分がどんなに一所懸命映画を作っても無名だと見てもらう所までなかなかどり着けないのです。ところが僕の名前を知っている人がいると「こういう人がいて、その人が作った作品だからちょっと見てみようか」と初めてなるわけです。皆さんも物作りや色んな表現をしていく分野の人がいるでしょうから、この先にそういうことに直面することがあるか

と思います。自分では一生懸命やる気があって、誰にも負けないものを作っている気持ちなのですけど、でも、それよりも大事なのは、誰に届いているか、ということなのです。

そういう意味では、僕はやっと皆さんに名前を覚えていただいて、そのおかげでたくさん賞もいただいたし、お客さんも来ていただきました。

自分たちが作った作品がやっと誰かに届く、という状況が来たのです。僕だけではなくて一緒に働いているキャストやスタッフ達の努力が報われる、というわけです。その一つの象徴として日藝賞だと思うので、本当にありがたいと思っています。

ちなみに「この世界の片隅に」を見た方いらっしゃいますか？

実はこの映画は僕があまり世の中に名前を知られていないけれど、一部の方には覚えられていた、という時代の作品です。そんな中途半端な存在だったので、何が困るかというところとスポンサーがお金を出してくれないということです。うちの家計で一番大変だった時は預金通帳数万円しか残っていない。つまり、映画を作るのに途中まで持ち出しでやっていたのです。

もちろん立替えでするので予算が成立すれば戻ります。

映画の予算を成立させるためには、スポンサーが映画にお金を投資しても利益が戻ってくる、という確証を得なければいけません。よくあ



る確証の一つに前回その監督が作った映画の興行収入があります。実は僕がその前に作った「マイマイ新子と千年の魔法」という映画の興行収入はあまり芳しくありませんでした。それではお金を出せない、となる方が多数いらっしゃる中で、じゃあどうすれば良いかな、と考えました。そこで、「こういう映画を作ったら見たい人」、「この原作者の描いた漫画」、「こういう監督です」等、情報をオープンにしてクラウドファンディングをやってみたら、そこにたくさんの方々が署名活動みたいなことをしてくださったのです。(クラウドファンディングとは不特定多数の人がインターネット経由で他の人や組織などに財源の提供や協力などをおこなうこと)

クラウドファンディングは賛同者にお金を出して頂くので、そのお金の使い道をちゃんとはっきりさせておかなければいけません。その使い道として僕らが考えたのはクラウドファンディングでたくさんの方の名前を集め、こういう作品が作られますよ、というテストピースを作ることでした。

スポンサーは全然いなかったのですが、3774名の方がクラウドファンディングで参加してくださったおかげでできた作品です。これは自分にとって、すごく誇りに思っています。

映画を作ろうとすると何億円もか

かります。いきなり2億円借金させてください、って銀行に行っても無理です。だけどそういうところから始まった自分のアニメーションの作り手としての生活がずっとずっと続いてきて、ここで3774人という方がいいよ、って言うてくださったのです。

映画の良し悪しとお客さんが入るか入らないかは別問題です。「マイマイ新子と千年の魔法」を上映する際、僕はこの映画は大人と子供と一緒に見てほしいと思いました。それには子供より選択肢の幅の広い大人が先にその映画を目にする必要があると考えました。なので、最初は夜の上映を希望していたのですが、子供と一緒に見る映画だから、ということで昼間の最後の時間帯に上映が設定されてしまったのです。これでは日中仕事をしている大人が見に行けず、思うような観客が集まりません。

そこで、自分たちに何ができると考え、宣伝をもっとやろうと思いました。

2009年の話です。その時初めてツイッターで呼びかけてみました。どうして僕はツイッターの使い方を知っていたかと言うと細田守監督の「サマーウォーズ」の宣伝マンが僕に「片淵監督もツイッター覚えておくと後で何か役に立つかもしれませんよ」と言われていたからです。そうしたらアニメーションの識者たちが

「これは絶対見に行った方がいいよ」と言うてくれて、そこでたくさんのツイッターのユーザーが反応してくれるようになりました。4週目の最後の上映日に行ってみたら、なんと朝9時から新宿ピカデリーのスクリーンの前の座席が9割以上埋まっているんです。ネクタイ締めたサラリーマンがいっぱいいるんです。会社どうしたんだよ、って(笑)

それと同時にもう一つ手を打ちました。いっそのこと大人に見てもらいたいと思いレイトショーを用意しました。ラピュタ阿佐ヶ谷という48席の小さな映画館があって、そこで1週間でもいいからレイトショーの上映をやってもらえないか、と。そこは名画座なので、他のプログラムの終わった21時からでよいから、と掛け合ったら1日2回、1週間上映してみました。ということになりました。そうしたら、その時点でツイッターでこの映画の名前が知られてきたので朝7時から整理券が必要な行列が出来てしまうことが1週間続きました。その状況を他の人がSNSで伝えれば伝えるほどどんどんお客さんが来るようになってしまって、とうとう映画館の方が私たちの仕事は映画をお客さんに見てもらおう事で、「お客さんを追い返すことではない」と言い出してもう1回上映しましょう、ということは何度も繰り返して結局1年間上映しました。それがクラウドファンディングの3774

第12回日藝賞記念講演

人の呼び出す前段階であったわけです。

でもそれだけじゃなくて、他にも僕らに出来る事は何かあるだろう、と考えました。その作品の宣伝担当が最初の1週間はお客さんを逃がしちゃダメです、と言うんです。そこで映画を見に来てくださったお客さんへプレゼントとしてお渡しするカードを自分たちで作りました。毎日違う絵柄のカードを自分たちでデザインして、画用紙を買い、会社のプリンターで毎日印刷していました。それを持って毎日映画館に行くんです。48席という空間は本当に素晴らしかったです。毎日舞台挨拶で「この映画を初めて見る人」と観客席に問いかけると半数が手を上げる。半分の方は前の晩も来てくださっているんです。翌日も「初めて見る方」と聞くと半分手を上げる。毎日画用紙のカードを作り、毎日監督が舞台挨拶をする、っていうことをしました。半数の人は前の晩の舞台挨拶を聞いているので100回くらい違うネタを考えました。途中からは明日の舞台挨拶どうしようか、と作戦会議を毎晩やるようになりました。

そこで作品に携わったゲストを呼ぼう、と音楽を担当された村井秀清さんに来ていただき、せっかくだから楽器を演奏して欲しいね、となりました。ピアノは持ち込めないのでもピアノを持ってきてくれて、映画の中で一番感動的な曲を48席の観

客の前でピアノを弾いてくれた時は本当に感動しました。その演奏の様子がYoutubeに今でもあると思います。そういう風に毎晩やってそれでやっと3774人の人が次の作品にクラウドファンディングでこういう監督知っているか？この作品に映画を作らせてあげようじゃないか、と動いてくださったのです。

ある時、舞台挨拶で観客の前で「DVDがやっと出ることになりました」と発表したら客席が息を飲むようにしーんと静まったんです。お客さんと映画館と作り手である我々が一体になって存在していることを実感しました。これがモノづくりをする上では究極の姿なんじゃないかな、と思いました。

上映の最終日、そもそもこの大変な状況をもたらしたのは配給会社さんだったのですが、配給会社のプロデューサーが来て「自分たちのやり方が間違っていた」と言ったんです。自分たちはシネコンを運用している会社ですが、シネコンでは応えられない映画がある、それがこの映画です。と言ったのです。

我々が間違っていた、とお客さんの前で言ってくれたんです。

なので、次に作る「この世界の片隅に」という映画はむしろシネコンではなくて、街中に残っているミニシアター、一般の映画館で配給してもらえるようにと思いました。

「この世界の片隅に」という映画は

みんなで水をあげる花です。作り手である僕らが花を咲かせるんじゃないです。お客さんや映画館の方たちがみんなで水をやり続け、劇場を埋め続けることによってずっと花が咲き続けるんです。

これらをひとつひとつ積み重ね、ひとりひとりのお客さんのもとに届けようと思い、それがやっとお客さんに届いて、今日の日藝賞受賞になったのだと思います。

映画と言うのは独りよがりとは言いませんが、作り手が作り、あとはお客さんが好きに見ていい、というスタイルではない時代に立っているのかもしれない。そういう風に思って活動しているのは自分だけではなくて後輩たちの中にも出てきているのが嬉しいです。

モノづくり、またはいろんな表現、人に見てもらいたい、聞いてもらいたい、感じ取ってもらいたいと思っても、お客さんは来ないかもしれない。だとしたら自分からお客さんへ向かって行った方がいいなあ、と今までを振り返って思いました。

「この世界の片隅に」では、作品当時の広島の写真をもとに映像を作ったそうで、写真に写っていた実在の人物も描かれているとのこと。

また、学生時代に出会った宮崎駿監督とのエピソードなども披露され、学生からも活発な質問があつという間の90分だった。

平成30年度芸術学部校友会総会・懇親会

平成30年度日本大学芸術学部校友会総会が6月16日(土)午後5時よりE101教室にて開催された。

総会は田上竣詞会長(放53年度卒)の挨拶、続いて議長に茅原良平常任幹事(放H13年度卒)、副議長に長瀬浩明常任幹事(テ63年度卒)、書記に西垣仁美常任幹事(写58年度卒)を選出、議事に入った。議長より会則第10条により会は成立する旨の報告があった。

第1号議案・会務報告(川上央常任幹事・総務・音H7年度卒)のあと第2号議案・会計報告(宮澤誠一常任幹事・財務・映46年度卒)および監査報告(渡辺圭一監事・音51年度卒)、第3号議案・予算案審議(宮澤常任幹事・財務)へと進み、いずれも拍手をもって承認された。

高橋則英副会長(写52年度卒)より第4号議案・会則改定についての説明がなされた。従来の会則の誤表記、用語の調整、専門委員会の設置、副会長の人数の増員について拍手を持って承認された。

最後に報告事項として個人情報保護法の改正に伴う細則の制定が4月の常任幹事会で決議された旨が報告された。

また、校友の方より5月からの日大アメフト問題について総会の出欠ハガキでもたくさんのご意見を頂いたため、アンケート用紙にご意見を記入して提出していただくことにした。

引き続き学生食堂にて懇親会を行い、司会進行は原一平常任幹事(演48年度卒)をお願いした。

最初に田上会長と木村政司学部長(テ53年度卒)の挨拶、干場文夫会員(音50年度卒)、三垣理英子会員(院H20年度卒)による日大校歌斉唱があり、来賓祝辞として瀬川一之日本大学校友会本部長のご挨拶、小野卓日本大学芸術学部事務局長による乾杯で懇親会が始まった。学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席いただき、楽しいひと時を過ごし、最後に高橋副会長の中締め挨拶でお開きとなった。



平成30年度(2018年度) 予算

収入之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
本部よりの会費	準会員 4000円×4,025人=16,100,000円 正会員 3,000円×40人=120,000円	16,220,000
校友会幹身費	5,000円×300人=1,500,000円	1,500,000
雑収入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	1,150,000
収入利息		10,000
合計		18,880,000

特別会計	前期繰越金	12,100,000
------	-------	------------

支出之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
総会費	懇親会	260,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	230,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	20,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	60,000
通信費	会報発送(在校生・卒業生)総会・会費請求切手 他	5,300,000
補助費	学科同窓会・幹事会・総会・日芸祭・卒業生を送る会 支部補助(20支部×5万円)支部総会出席祝儀	1,620,000
寄付分担金	本部校友会分担金、日本大学130周年記念事業募金 他	450,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	1,900,000
人件費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,220,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	600,000
旅費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,780,000
租税公課	利子税	5,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	200,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース(21,824円)	320,000
本部役員会費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交流費	新年会・他学部校友会交際(13学部総会祝儀×2万円)	1,000,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	170,000
雑費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	250,000
支払手数料	銀行支払手数料など	25,000
退職積立金	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)	300,000
減価償却費		
合計		18,880,000

特別会計	平成30年度入学歓迎式典費用一式	1,800,000
	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)前年度分	300,000
	江古田通年化及び新棟建設に関連した芸術学部への寄付	10,000,000
特別会計合計		12,100,000

写真提供:干場文夫(音楽50年度卒)

皆さん今日は！

平成30年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

●高賀登(旧制21年度卒)

昭和19年日大板橋工科に入学。当時は戦時中の為、授業らしいものはなく、金丸先生から商業写真の撮り方などの話を聞いたことなど思い出されます。富士山が好きで何百枚も撮り、今はその頃の思い出に時折アルバムを…。92才になり友人知人がほとんどなく吾人生について思考中？

●岡野眞久(旧制22年度卒)

90才を迎え、頑張っています。学生生活を思い出していますが学部へは何十年前に行ったきりで江古田周辺も大きく変化したと思います。会の発展を祈念しています。

●村田博信(旧制24年度卒)

何時も校友会のお知らせ有難うございます。小生体調が未だすぐれず歩行が困難のため杖を使って生活です。現在リハビリ等をして健康回復に頑張っております。早く治して校友とお会いしたいと思います。

●山本富三(写真31年度卒)

・年令(84才)からアナログ世界モノクロフィルム世界
・2017年日本写真学会で特別会員の表彰を受けました。
・小生出版の『今は昔』は2019年6月より電子書籍になりました。

●田口桂(写真34年度卒)

会報100号おめでとう。今号は今までにない充実した内容になり、やっと大学らしくなってきたかと嬉しく思いました。小生もまだ八十路を過ぎては壮年を続けています。母校の発展がひとつの励みになっているようです。

●佐野陸夫(写真38年度卒)

喜寿も過ぎ、地域のボランティア活動につとめています。子供見守、防

災パトロール、パソコン講座の講師、自治会活動、地域の老人会の世話役等etc…。勤めていた新聞社を退職、早や17年、現役時代は仕事一筋でもできなかったが、今は趣味の書道、ゴルフやボランティアに生きる喜びを感じています。

●佐藤徹郎(写真44年度卒)

インスタに毎日作品をアップしています。hengraphy7

●石渡広之(写真55年度卒)

5月から10月まで、小田和正さんのコンサート・ツアーで映像の仕事を担当しています。

●浅川英郎(写真63年度卒)

2018年1月(銀座)にて「音楽写真展」2月に(茅場町)にて「Snapland」と個展を開催。

●岡良和(映画25年度卒)

終戦の翌年に入学、校舎の裏に兵器庫があり、その右奥にプールがあった。専門部から新制学部と6年間在学した。渡辺俊平、井上俊彦両先生との大切な思い出、日芸はアメフトの日大とは全く別な学舎です。日芸良い思い出を有難う。

●藤岡俊臣(映画27年度卒)

日大アメフト記者会見なんともオソマツで情けなかった。ウソをつくな!!フェアプレーはどこへ行ってしまったの。

●渡辺公夫(映画38年度卒)

昨年、日藝の文化祭を卒業後はじめてみました。同期の仲間と3人で…。昔の面影はなく、近代的な校舎には「びっくり」しました。活気がある学生たちは時代の「ズレ」を感じ、後輩の活躍を心より祈っています。

●石丸幸二(映画59年度卒)

今回の日大フェニックスの事件に対しての日大の対応はOBとして恥

ずかしいです。学生を見捨て、自己保身に走っている当事者の様子はおぞましいです。

●新倉光(映画62年度卒)

手間のかかる発達障碍児を育てているうちに父母の介護もするようになりました。学生の時に習った「全部自分でできるようになる必要はない。誰に頼めば最適か考える」がモットーです。

●渡辺暁雄(映画H4年度卒)

大河ドラマ「西郷どん」の音声を担当しております。原作、脚本、出演者とたくさんの日芸出身者が番組に関わっています。

●伊東昭義(美術37年度卒)

近年は「スミソニアン」での個展をはじめ「ユネスコ」パリ本部招待による個展を開催し反響を得ています。現在ユネスコ日本政府は代表部が私に変わってパリを中心に作品を無償で貸出し個展を継続中です。ホームページito-art.jpを宜しくお願いします。

●椎橋幸夫(美術43年度卒)

今年76才、趣味の「石」集め等々に夢中に成って、仲間と日本中の海・山へ探石に行ってます。関東一円の博覧会に訪ね歩き、又自会の年一回の開催(浅草公会堂)に忙しさと楽しさを友人と共有して若さを保って居ます。

●鎌田英明(美術63年度卒)

4月に広島原爆ドームと呉市、江田島の観光を楽しみました。諸外国の人も多いです。アニメ監督片淵氏より後輩ですが、四作品を創作し続けてくださることを願ってやみません。「この世界の片隅に」。平和祈念。

●安東保(音楽28年度卒)

校友会報100号楽しくなつかく

読ませていただきました。入学当時の日芸(1950年)は線路側はプールがあり広い芝生があり音楽棟・美術棟が傍でした。全学年江古田、おめでとうございます。

●松本和子(音楽28年度卒)

6月20日にテナーの方の伴奏、7月8日には教室の発表会、7月16日に地方のコンクールの審査の仕事があり、ささやかな演奏活動をして居ります。30人程のサークル(歌声)の指導もして居ります。

●木田匡英(音楽37年度卒)

私は昭和28年4月1日に芸術学部音楽学科へ入学し昭和38年3月31日に卒業しました・たくさん納めました。当時は木造2階建てで歩けばギンギン音がしました。当時は教授の先生方は東大卒と日大卒の先生が半々でした。その後学生運動がはげしく東大と日大が一番激しくその次に有名な先生方が去ってしまわれました。

●柳井和郎(音楽37年度卒)

定年退職してから18年目、最近パソコンと出会い、パソコンを使い曲作り、聖書もしております。鉛筆なめなめを卒業しました。

●河野美帆子(音楽H10年度卒)

新生江古田計画、平成31年度からの江古田通年化を校友会報を読んで知りました。新緑の美しい季節、友人たちと過ごした所沢校舎をふわりと懐かしく思い出しました。音楽棟からは音程の整ったきれいな合唱が聞こえてきました。曲は「赤いスイートピー」でした。なんて素敵なんだろうと思ったことを覚えています。

●武士俣光也(文芸36年度卒)

3年前にNPO法人湘南遺産プロジェクトを開設して、今年第3回「湘南遺産選定」を一般のWeb投票で公募中です。湘南エリアは二宮町～寿司羽山までの沿岸市長自治区のモノ、コト、ヒト等のレガシーを「皆さんで選ばう」という趣旨です。みなさんもぜひ

ひネットを開いて投票参加ください。ネットは「湘南遺産」で検索して下さい。

●原田嘉行(文芸40年度卒)

「夢千代日記」「花へんろ」などで知られ昨年末に88歳で逝去された脚本家・小説家の早坂暁先生は演劇学科を卒業し日藝の先生もされました。先生には卒論を指導して頂き教室はテレビ局近くの喫茶店で時には女優さんも同席されてなんとも豊かな日藝時代の佳き思い出です。

●横田正樹(文芸41年度卒)

北海道の札幌テレビで人気・実力伴う森中さんが、ある日突然画面から消え、大学に戻ったとのことを知りました。校友会には参加できませんが、放送、新聞等で芸術学部出身者気合い入れて見えています。

●石川千穂子(文芸52年度卒)

ライターとして『「定年後」がやってくる前に考えておくべきこと』(PHP研究所)を刊行。コンビニにもおいてあります。また「東芝エレベータ」「ソニー生命保険」等のカレンダーのコピーを制作中です。今年は『赤い鳥』創刊百年ということで文芸誌「児童文芸」で特集を組みました。

●藤田洋一(演劇推薦校友)

今年5月に演劇江古田会フォーラムを中ホールにて開催しました。150名程の学生が参加。盛会でした。パネリストの声優の古川登志夫氏、日本テレビの演出家・水田伸生氏、水塚歌劇の演出家・野口幸作氏ほか。

●出野徹之(演劇41年度卒)

関西民放クラブ(OB・OG会)関西テレビ社友会で監事・幹事をしてそれなりにスケジュールがあります。アナウンサー養成所で毎月若い人に教えています。アナウンサー、報道記者の経験を伝えています。1979年1月三菱銀行北畠支店で人質立てこもり事件があり機動隊突入の瞬間を実況中継、関西テレビ開局60周年特集

で放送され、チョットした反響がありました。

●森平猛(演劇49年度卒)

5年前に定年退職し、系列の会社にて会社規定により契約社員として1年度ごとに更新しながら現役時代同様の仕事をしてきましたが、65歳でその契約も規定により終了。長い間の会社員としての生活も終了しました。しかし、体力的にもまだまだ働ける為、現在もフリーの照明技術者として動き回っています！よろしく!!

●石井智子(演劇63年度卒)

スペイン舞踊40周年記念講演「ちはやふるー大地の歌ー」をこの度文化庁芸術祭大賞を受賞することができました。舞台音響、チラシ、プログラムデザインなど芸術学部出身の先輩方がスタッフとしてかかわってくださり、皆様に心より感謝いたします。大学時代に学んだことが今でも舞台活動に大いに生かされており、日本大学芸術学部を卒業したことを誇りに思っております。

●町田寿二(短大放送科34年度卒)

京都の市民と一緒にってつくったNPOによるコミュニティFM局は、おかげ様で今年3月に開局15周年を迎えることができました。放送学科第1期生の私としましては大変誇りに思っている次第です。

●佐野昭夫(放送41年度卒)

時々TV番組で江古田駅周辺の紹介がありますが、余りの変わりように驚いております。今、50年ぶりに現地を訪れたら浦島太郎の心境だと思えます。来年から全学年江古田での修学となればにぎやかな町になるでしょうね。

●宮崎健一(放送47年度卒)

熊本地震より2年が経過し傷ついた熊本城を始め少しずつ復興が進み始めています。当地南阿蘇村もやっと復興住宅の建設着工です。全国の皆様のあたたかいご支援に感謝いた

します。「震災はいつでもどこにでもやって来る」自覚したいものですね…。

●金児裕子(放送52年度卒)

ヴォイス・デザイナーとして、大学でコミュニケーション関連の授業を担当したり、一般向けにヴォイストレーニングを行ったりしています。また、声優の卵に専門学校で、一般向けに朗読教室で朗読を指導。朗読はライフワークとして講演やWSをお仲間と開催しています。フリーアナとして司会やナレーションもまだまだやらせて頂いています。

●森本茂樹(放送58年度卒)

現在福井放送の製作アナウンス現場で汗を流しています、あつという間の入社35年目ですがまだまだ勉強の毎日です。

●吉岡正策(デザイン37年度卒)

この7月で80才になります。1昨年8才年下の妻を亡くして、何とか一人でやっております。ある広告代理店の制作部に勤め、65才で定年を迎え、現在に至ります。幸いなことに退職後、友人と3~4年、制作プロダクションを始め、その時パソコンを覚え、おかげさまでこの年でフォトショップ、イラストレーターなどを使って楽しんでいます。今は絵のモチーフ等の組み立てに利用しています。

●城井廣邦(デザイン42年度卒)

創造展(創造美術界)18年度能面で新人賞をいただくことができました。

●千北正(デザイン51年度卒)

芸術学部長に就任した木村学部長

とは、日芸入学時から同期生であり、一緒に机を隣にして課題制作に取り組み、良きライバルであったことを思い出します。今年3月17日のホームカミングデーでは、同期のライバル仲間が多く集まることができました。現在60代に入っても現役でデザインの仕事に田主されることができると、このライバル仲間があってこそです。

●渡邊伸綱(デザイン53年度卒)

2017年度ノーベル文学賞作家、カズオ・イシグロ氏代表作「日の名残り」「遠い山なみの光」装丁画制作いたしました。とても光栄なことと思います。

福岡江古田会 アート展と総会

5月17日(木)~22日(火) 於:御膳屋菴離

5月17日~22日、福岡市アジア美術館で第17回福岡江古田会アート展「江古田会とその仲間たち」を開催しました。佐賀江古田会・熊本江古田会・鹿児島江古田会をはじめ、遠く長野・神奈川・大阪・鳥取から江古田会とその仲間たち28名が約120点を出展、日芸賞の最新版CDを校友会から借りエンドレスで会場に流しました。開催日には毎日新聞が取材に駆けつけて頂き、翌日の地方版に大きく掲載されました。

アート展開催中の5月19日には、新任の木村政司学部長と田上峻詞校友会会長を迎えて福岡江古田会総会を、総勢32名が集い博多座地下2階の御膳屋菴離で行いました。総会では会則変更をメインテーマに話し合い、総会、会報、アート展など来年度も行うことが承認され、懇親会に移りました。木村学部長から世間を騒がせている日大アメリカンフット

ボールの問題に触れ、「このような時だからこそ我々は日芸として結束していこう」と、田上校友会会長からも「立派の個性あるアート展に感激しました」と挨拶を頂きました。懇親会

では、自己紹介のあと、恒例の抽選会に移り、韓国のちゃぶ台を目指しての抽選会となり、楽しい抽選会のひと時となりました。

飛嶋 慶一



佐賀江古田会総会

5月20日(日) 於:旅館あけぼの

新任の木村学部長と田上校友会長、熊本江古田会の奥村前会長と川村さん、福岡江古田会の飛島会長、鹿児島江古田会の堀之内さん、前長崎日大校長の木下さん、そして11名の会員が集まり第17回の佐賀江古田祭り(芸術学部校友会佐賀県支部総会)を、5月20日(日)、佐賀市の「旅館あけぼの」で行いました。

総会では、木村学部長から直近で発生した日大アメフト部の問題に触れられ「このような時だからこそ、日芸は学生を守っていく」と、田上校友会長からも「全国の江古田会の皆さんの支援と協力を頂き活動していきます」と挨拶を頂き、今後、新会員を含め参加者を増やしていくことを確認。少人数ながら賑やかに開催することが出来ました。

そして懇親会のメは音成さんの「佐賀にわか」。初めての佐賀訪問で

ある木村学部長と田上校友会長も大爆笑。これが噂の佐賀にわかですかと満足頂きました。

総会後の二次会は、いつも夫婦で参加される原田さん(親子二代音楽卒・奥様は東京出身)のお店に直行、夜のふけるのも忘れ遅くまでお付き合いいただきました。

また今回は、光野会長の知人で、お子さんが写真学科を卒業し、お孫さん二人が在学中という縁で、有田焼の「柿右衛門窯」の顧問・酒井田正宏さんの計らいで「柿右衛門窯」を訪



問。通常、一般の人は入れない絵付けや窯場等を見学。学部長と校友会長からは「伊勢神宮に似た、凜とした空気感がある」との話があり、佐賀県人として少し鼻が高くなった気がしております。

追申ですが、もし有田を訪問したい方がいらっしゃいましたら、ご一報ください。光野会長の知り合いの方まだまだいらっしゃいますので、紹介かご案内できると思います。

佐賀江古田会事務局
土井 洋(写48年度卒)



山形江古田会総会

6月9日(土) 於:山形グランドホテル

周りの山々が新緑に輝き、「さくらんぼ」の収穫が本格的になろうとしている山形市で、芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)平成30年度総会を開催しました。

司会進行は、秋葉覚(芸芸・昭和53年度卒)幹事です。来賓として、木村政司芸術学部学部長、田上竣司芸術学部校友会会長、加藤賢一日本大学校友会山形県支部支部長の方々をお招きしました。会員11名の参加と、卒業生父母の参加もあり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、事業・会務報告、会計決算報告、監査報告があり承認されました。次に、役員改選に入りました。支部長の横倉晋也(美術・昭和52年度卒)が再任さ

れ、幹事長の井澤聡(放送・昭和62年度卒)を始め、幹事、監事も原案通り承認されました。その後、事業・会務計画案、予算案が承認され、総会は例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会です。来賓祝辞と続き、萩野元彦(演劇・昭和43年度卒)幹事の乾杯の音頭で懇親に入りました。世代を越えた「日藝」の強いつながりに「江古田」の街への思いが重なり、温かい会場になりました。平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく元気よく、会は進行しました。時間の速さを感じながら、秋葉覚幹事の「山形花笠締め」で中締め閉会となり、井澤聡(放送・昭和62年度

卒)幹事長の絶妙な司会により、たいへん盛り上がりながらもちょうど良い時間に収まりました。

今年も又、ほとんどの参加者が二次会へと進みました。そして三次会へと、熱く、温かい山形の夜は更け、やがて日付は変わってゆきました。

支部長
横倉 晋也(美術52年度卒)



宮城江古田会

「第2回アートフェスティバル・東北」

6月23日(土)・24日(日) 於:せんだいメディアテーク

緑かがやく定禅寺通り沿いのせんだいメディアテークで、6月23日(土)・24日(日)の2日間「第2回アートフェスティバル・東北」(実行委員長・柳橋邦彦)が開催されました。

前回の開催は10年前。実行委員のメンバーも年を重ね、「宮城江古田会30周年の節目の年だから…」という声だけでなく「今回で最後かもしれないから…」という声もあった中、気が付けば私も全速力で駆け抜けた熱い2日間となりました。

ステージは大川原儀明さんの進行で、星久美子さんの歌唱、高橋咲千子さんのピアノ、加藤順子さんのカンツォーネ、木村政司学部長もご登壇なされた「日芸トーク」、桑折洋一宮城江古田会会長によるエフエムたいはくのラジオ番組公開収録など盛り沢山。出展も写真を中心に、絵画、彫刻、ポスター、オルゴール、書籍、生け花などの約50点が並び、バラエティに富んだ「日藝らしい」光景となりました。日藝賞受賞者のタペストリー

もひときわ目を引くものでした。私もこっそりと写真と詩のミニパネル展示や朗読ライブ、f mいずみのラジオ番組収録、先輩方のアシスタントをさせていただきました。驚いたのは塚崎隆夫前宮城江古田会会長で、音響オペレーター(人生初だそうです)になっていました。「ひとりひとりがコンテンツ」とは大川原さんの言葉ですがまさにその通り。誰一人欠けても実現できなかったフェスティバルだったのではないのでしょうか。1000名を超えるお客様にも恵まれました。

多くの皆様のご支援・ご協力のもと、このように盛大にアートフェスティバルを開催することができました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。有難うございました。

初日終了後に行わ

れた宮城江古田会総会は史上最短で終了し、続いて熱い懇親会が行われたことも心に残るひとときでした。

佐藤 円(放送H4年度卒)



宮城江古田会の活動にご尽力してくださったお二方に校友会より感謝状が贈られました。(写真右より塚崎隆夫氏(写真42年度卒)、田上会長、柳橋邦彦氏(文芸38年度卒))



熊本江古田会総会

7月7日(土) 於:KKRホテル熊本

熊本江古田会の総会・懇親会は7月7日、熊本市でありました。来賓の木村政司学部長、田上竣司校友会会長をはじめ、久しぶりに30人を超えるにぎやかな会となりました。木村、田上の両氏は「学部、校友会、海外や全国

の支部が一体となって難局を乗り越えていきたい」と述べられ、夜遅くまで、熊本の会員と熱く語られました。また熊本市出身で演劇学科卒業の、ものまねコンビ「坂上カレン」の「らりる



RIE」さんも参加。モデルでタレントの滝沢カレンさんのものまねでテレビ出演も果たした人気上昇中の彼女。この会のために帰郷してくれました。相手の「かずみん」さん

と会を盛り上げてくれました。

翌日、木村、田上の両氏は、江戸初期から京都象徴の流れを継承してい



る肥後象嵌の工房と、熊本地震で大きく壊れた熊本城を見学しました。天守閣は2年後に修復が終わりますが、「石垣や櫓などの復元には30年ほどかかる」と聞いて、驚いておられました。

熊本地震から2年半が経ちますが、現在も2万8千人を超える方が『仮設住まい』を余儀なくされています。熊本江古田会にも、事業再開の目処が立たない会員がいます。そんな中、東京五輪が開催される2020年、熊本江

古田会は創立35周年を迎えます。新たな歴史を築くべく、すでに準備作業を始めています。

熊本江古田会会長
穀本 純二

第19回宮崎江古田会総会開催

7月14日(土) 於:「杉の子」桃太郎の間

第19回宮崎江古田会総会・懇親会が平成30年7月14日(土)宮崎市内のふるさと料理「杉の子」桃太郎の間で会員9名来賓4名計13名の参加で開催されました。総会では後藤支部長の開会の挨拶、米倉事務局長(S52写真卒)和田会計監査(S61年度卒)による平成29年度の会計報告が行われ承認されました。来賓の招聘集合写真撮影後、懇親会となり長嶺宣幸副支部長司会のもと木村政司新学部長、田上竣詞新校友会会長、熊本江古田会穀本純二新会長、鹿児島江古田会坪田一樹氏の来賓紹介があり、木村政司新学部長から来季より江古田校舎に全学科集め所沢校舎はクローズし従来に戻る、江古田の街が再復活す

ることは喜ばしい事だというお話。その後で日大アメフトボールの話題に話が進み、これからの日大の方向性が注目される、会員全員が注視しているとの事。新芸術学部校友会田上竣詞会長からは新しい校友会への抱負のお話がありました。乾杯は井上剛氏(S48美術卒)の乾杯の発声とともに懇親会がスタート。卒業以来22年振りとなった鹿児島からの堀内氏と地元宮崎の竹井倫代(H8放送卒)のご対面があったり、恒例となった3分スピーチで近況報告があり3分が大幅にオーバーする熱の入ったスピーチになった。そしてこれも恒例となったビンゴゲーム、各自が持参した景品を楽しそうに選んだり盛り

上がった。最後に紅一点の竹井倫代女史に締めをお願いし、一時会は盛大に修了。その後二次会でもカラオケなしの会話中心で大盛況の内に終了となりました。木村学部長、田上校友会会長連日の各支部総会出席お疲れ様でした。

宮崎江古田会
後藤 欣久(美術44年度卒)



北海道江古田会総会

7月28日(土) 於:札幌 東急REIホテル

平成30年度の北海道江古田会総会・懇親会が、7月28日(土)午後6時から、札幌 東急REIホテルにおいて、会員、来賓、合わせて29名が出席して盛大に開催されました。

芸術学部からは、田上竣詞校友会会長、木村政司学部長をはじめ、道内日本大学の各支部長の出席をいただきました。

総会では、氏家支部長が挨拶した後、牧議長のもと、総会が進められ、その中で、役員改選が行われ執行部提案が可決されました。

その他、大神事務局長より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、昨年に続き、56年音楽学科入学の山上淳子幹事の総合司会により、懇親会が始まりました。

冒頭、今年の4月にお亡くなりになった、北海道江古田会の最高顧問の浅利徹

様に対して黙とうが行われました。

来賓挨拶では、田上会長より校友会の組織改革など、校友会の現状について、木村学部長からは、芸術学部



の現況や、今後の取り組み等について、お話をいただきました。

札幌日本大学学園理事長の浅利剛之様の乾杯で、宴会が始まりました。

今年は、原俊彰さんの見事なマジックショーや浜坂裕樹さんの素敵なたランベットの演奏が披露され会場は、大変、盛り上がりました。

ビンゴゲームでは、高額商品券や、

ワインなど豪華景品に加え、札幌テレビ放送グッズ、北海道放送グッズまた、函館湯の川プリンスホテルの河内孝善さんや白糠町の谷口修さんから、景品が届くなど、出席者全員に商品が当たりました。

また、毎年評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬く間に過ぎ、日本

大学校友会札幌副支部長の、八十島保様の締め乾杯で、お開きとなりました。

年々、高齢化が進む中、また来年、元気で皆様と再会できることを祈っています。

北海道江古田会会長
氏家 曹一(放送52年度卒)

新潟江古田会総会

9月1日(土) 於:ANAクラウンプラザホテル新潟

平成30年度新潟江古田会総会が新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で、木村学部長、田上校友会会長ご両名の出席を賜り、少人数ではありましたが和気藹々と開催されました。

続いて懇親会では、新潟十日町地区で3年毎に開催されている大地の芸術祭「Echigo-Tsumari Art Triennare 2018」に日大芸術学部の学生有志が作品を出品し参加していることが

ら、江古田会総会会場を新潟市だけでなく、開催に合わせて、十日町市方面でも開催したらどうかとの提案があり、検討することになりました。

新潟県在住の新潟江古田会会員の増加に繋がればと思っております。

新潟江古田会 会長
増井伸一(写真48年度卒)



江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇 H9 年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画 40 年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	穀本 純二	写真 48 年度卒	090-2712-3820
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

学科ニュース

写真ブロック



●今年度から南岡秀男先生に「写真基礎演習Ⅲ」を、小高美穂先生に「ゼミナール」を、そして三村漢先生には「写真編集」を新たに担当していただきました。また写真特別講座Ⅱ(オムニバス授業)は、熊切大輔先生、前川貴行先生、宮澤正明先生に新たにお願ひ致しました。

●オリジナルプリント展「Life 命の輝き—Portraits—」を5月8日から6月8日まで芸術資料館で開催しました。1867年にJ.M.カメロンが撮影したハーシェルの写真から1998年にE.アーウィットがカンボジアで撮影した子供の写真まで古今東西の写真家45名による95点の人間を被写体とした作品を展示しました。

●「GRIP2018日本大学芸術学部写真学科学学生選抜作品展」を四谷のポートレートギャラリーで5月24日から30日まで開催しました。出展者は2年

から4年の学生で、加藤智行、北嶋架向、重岡あすか、高橋直暉、高橋なつみ、中古樹、利川萌々、中野雄翔、萩原哲平、丸喜翔太の10名です。

●「写真・映像機材展2018」を江古田校舎東棟1階の大スタジオ、小スタジオで7月2日、3日の授業期間中に開催しました。メーカー22社の参加がありました。今年もインクジェットペーパーのメーカーによりペーパーの紹介や即売がありました。更に見本で配布された紙をキャノンの協力によりその場でプリントするという企画を行い、盛況でした。恒例の掘り出し市、籤による写真関係のグッズが当たる企画も催され、多くの学生で賑わいました。

●高校生のためのワークショップを7月14日、15日に開催しました。デジタルコースと銀塩コースに分かれて、撮影とプリント作業をしました。

●写真甲子園(7月31日から8月3日)および東川町国際写真フェスティバル(メイン会期8月4日、5日)をバックアップしました。

●7月31日～8月31日、北海道上川郡東川町のキトウシ森林公園ギャラ

リーにて今年は単独で写真展「暁—AKATSUKI—」～日本大学芸術学部写真学科学学生写真展～を開催しました。出展者は1年から4年までの写真甲子園に出場経験のある学生で、雨水光、石井拓夢、乙川和矢、中丸ひなこ、中野雄翔、深澤友香、藤原恒平、水野敦史、山田凌、山本さやか、渡邊葵の11名です。

●11月9日から11月22日に「NICHIGEI PHOTO in WACCA 2018」を池袋WACCA4階のギャラリースペースで開催します。3年生の金子春と池田彩恵の2人展「DANCERS」を開催します。

●オリジナルプリント展「原直久 時の遺産」を10月9日～11月9日に芸術資料館で開催します。詳細は芸術学部ホームページをご覧ください。会期中の11月2日～4日は芸術祭です。学生の写真も併せてご覧いただけます。ご来校をお待ちしております。

●直近情報等は写真学科公式Facebook/Twitterで発信しておりますのでご活用ください。

映画ブロック



●「フォーカスイン'2018」平成29年度卒業制作、映画演出Ⅲ/映

画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2018」が、6月26日～7月1日までの6日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行われました。58作品が上映され、450名あまりが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

●平成30年度オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは平成30年6月24日(日)に江古田校舎で行われました。映画学科では、卒業制作や映画演出Ⅲ/技術Ⅲの実習作品上映会、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、進学相談を実施しました。多くの受験生が来校しました。

美術ブロック



★日本版画協会 版画展において、大橋朋美助手が新人賞を受賞しました。
■第86回 日本版画協会 版画展

会期:10月7日～10月22日
会場:東京都美術館(上野)
有地好登教授、作田富幸非常勤講師、松下サトル非常勤講師、宮崎文子非常勤講師、元田久治非常勤講師が出品します。

■越境する版表現—版17展—
会期:10月1日～10月12日
会場:INOAC銀座並木通りギャラ

リー(銀座)
笹井祐子教授と五島三男(S47卒)が出品します。

■第71回立軌展
会期:10月31日～11月8日
会場:東京都美術館(上野)
大庭英治教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■日本大学付属高校生自画像デッサ

コンクール

会期:10月29日～11月16日

会場:江古田校舎A&Dギャラリー
美術学科主催による付属高校生を対象とした自画像コンクール

■版画の彩展 第43回全国大学版画展

会期:12月1日～16日

会場:町田市立国際版画美術館
選抜された版画専攻の学生が出品。

■石を磨き一石に描く

会期:12月4日～16日 *8日シンポジウム

場所:B Gallery (池袋)

笹井祐子教授が出品します。

■良寛慈愛チャリティー展

会期:12月12日～12月24日

会場:あらかきギャラリー(新潟)
坪井麻衣子専任講師が出品します。

■あなたのためのカレンダー展

会期:12月

会場:うしお画廊(銀座)

渡辺有葵非常勤講師、大山智子助手、設楽俊元助手等が出品します。

■第57回ミニヨン展

会期:12月中

会場:日動画廊(銀座)

櫻井孝美客員教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■第43回土日会展

会期:12月12日～24日

会場:国立新美術館

1976年に友情と情熱を基盤として絵画を中心に自由快活な研究団体として誕生しました。櫻井孝美客員教授、高松ゆたか常任幹事他、美術学科卒業生が多数出品。

■(財)北野生涯教育振興会彫刻奨学金受賞者展

会期:12月4日～15日

会場:芸術資料館他

受賞者が出品。

■日本大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻修了制作展(美術系)

会期:2019年1月9日～2月1日

会場:芸術学部芸術資料館、A&Dギャラリー

■『美術教育の森－美術教育研究室の作家たち－(仮称)』

会期:1月8日～1月20日

会場:東京藝術大学美術館(上野)
坪井麻衣子専任講師が出品します。

■日藝版画修了卒業制作展

会期:2019年2月下旬～

会場:ギャラリー川船(銀座)
版画専攻の卒業制作展を出品

■平成30年度 第42回東京五美術大学連合 修了・卒業生制作展

会期:2019年2月21日～3月3日

会場:国立新美術館(六本木)
平成30年度美術学科卒業・修了制作を出品

■第7回央展会

会期:2019年2月17日～2月23日
会場:ギャラリーサムシ(銀座)
大庭英治教授、福島唯史教授、設楽俊元助手等が出品します。

■大山智子展

会期:2019年3月11日～3月20日

会場:高輪画廊(銀座)
大山智子助手の個展を開催します。

■日藝の卒博

会期:2019年3月10日～17日

会場:江古田校舎 A&Dギャラリー、アトリエ他
卒業制作を展示します。

■春を想う。vol.7

会期:2019年3月18日～3月24日

会場:ギャラリーあづま(銀座)
坪井麻衣子専任講師、嶋村有里子非常勤講師が出品します。

■Femmes展

会期:2019年3月中

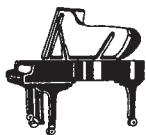
会場:高輪画廊(銀座)
嶋村有里子非常勤講師、太田冬美元非常勤講師、大山智子助手等が出品します。

■太田冬美・大山智子・嶋村有里子3人展

会期:2019年3月29日～4月5日

会場:ギャルリサロンドエス(銀座)
嶋村有里子非常勤講師、太田冬美元非常勤講師、大山智子助手等が出品します。

音楽ブロック



平成30年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。

●第46回ファカルティコンサート

於:芸術学部 音楽小ホール
平成30年10月13日(土)

17時30分開場/18時00分開演
音楽学科の教員による演奏会です。

●第49回オペラ公演

於:練馬文化センター小ホール
平成30年11月7日(水)

17時30分開場/18時00分開演

<演奏曲目>

D.チャマローザ/歌劇「秘密の結婚」

ハイライト原語上演

○指揮 江上孝則

○演出 岩田達宗

●第30回ウインドオーケストラ定期演奏会

於:練馬文化センター大ホール

平成30年11月13日(火)

18時30分開場/19時00分開演

<演奏曲目>

G.ホルスト(G.シュライヴァー)/組曲「惑星」より I.火星 戦争の神 IV.木星 快樂の神

P.スパーク/宇宙の音楽

D.ホルジンガー/春になって王達が戦いに出るにおよんで

G.ガーシュウィン(金山徹)/パリのアメリカ人

○指揮 稲川榮一

○演奏 日本大学芸術学部音楽学科ウインドオーケストラ

●第47回ピアノコンサート

平成30年11月16日(金)

於:練馬文化センター小ホール

15時00分開場/15時30分開演

試演会において、優秀な成績を修めたピアノコース学生による演奏会です。

●第127回定期演奏会

於:新宿文化センター大ホール

平成30年12月5日(水)

18時30分開場/19時00分開演

<演奏曲目>

R.ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「前奏曲」と「愛の死」

L.バースタイン／「ウエストサイドストーリー」より シンフォニックダンス

W.A.モーツァルト／レクイエム

ソプラノ：菊込紗樹

アルト：二瓶純子

テノール：佐藤圭

バリトン：大津康平

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

○合唱 日本大学芸術学部音楽学科合唱団

●第39回新作室内楽の会

於：芸術学部 音楽小ホール

平成30年12月22日(土)

開演時間未定

提出作品より選抜された演奏会です。

●大学院修了演奏会

於：練馬文化センター小ホール

平成31年3月7日(木)

18時00分開場／19時00分開演(予定)

修了演奏審査会において、優秀な成績を修めた学生による演奏会です。

●卒業演奏会

於：練馬文化センター小ホール

平成31年3月15日(金)

17時30分開場／18時00分開演

卒業演奏審査会において、優秀な成績を修めた学生による演奏会です。

●SWITCH2019

於：芸術学部 音楽小ホール他

平成31年3月16日(土)・17日(日)

開演時間未定

情報音楽コース有志による作品展示およびライブエレクトロニクスの演奏会です。

文芸ブロック



■山下聖美先生『別冊 100分de名著 集中講義 宮沢賢治 ほんとうの幸いを生きる』刊行

『NHK100分de名著 宮沢賢治スペシャル』に引き続き、山下先生の宮沢賢治再入門のガイドブックが刊行されました。賢治にとって「幸せ」とは何だったのか？ 波乱の生涯を追い、作品の本質をピンポイントで解説します。(NHK出版 7月刊)

■上坪裕介先生の書き下ろし原稿掲載、『庄野潤三の本 山の上の家』刊行
いまなお多くの読者に愛される、庄野潤三のはじめてのブックガイドが刊行されました。作品の舞台となった庄野家を撮影した写真、単行本未収録の小説、家族が書いたエッセイ、全著

作案内などを掲載。(夏葉社 8月刊)

■『文藝年鑑 2018』『同人雑誌』評を谷村順一先生が担当

谷村順一先生が『同人雑誌』を担当した、『文藝年鑑 2018』が刊行されました。(新潮社 6月刊)

■文芸学科関係者の作品が『連句年鑑』に掲載!

武田穂佳さん(文芸3年)、矢上裕子さん(文芸3年)をはじめ卒業生2名の連句一卷が、「平成30年度版 連句年鑑」に掲載されました。

■『第34回日大文芸賞』に文芸学科関係者が多数入選!

島崎葵さん(文芸4年)「冷たくきこえる」が、第34回日大文芸賞(日本大学新聞社主催)を受賞しました。また、渡辺銀次郎さん(卒業生)「弾み」が優秀賞を、入倉直幹さん(卒業生)「光」、武藤晴子さん(文芸学専攻前期課程2年)「すこしだけ、あらゆるものが」

が、それぞれ佳作を受賞しました。島崎さんの受賞作品は日本大学新聞7月号に全文掲載されています。

■『第29回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞』を受賞!

「第29回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」には、過去最多の195万4223句の応募があり、4名の文芸学科在学生の作品が以下の賞を、また、優秀学校賞を日本大学が受賞しました。

【優秀賞】武田穂佳

【佳作特別賞】矢上裕子、井口葉月

【佳作】大野瑞紀

【優秀学校賞】日本大学

入賞作品は、下記HPでご覧いただけます。

<https://itoen-shinhaiku.jp/result/>
優秀学校賞は下記HPでご覧いただけます。

<https://itoen-shinhaiku.jp/archive/29/school/>

演劇ブロック



■演劇学科創設70年

演劇学科は2020年、創設満70年の節目を迎えます。

これに先立ち、2019年秋、学科70周年記念パーティを「演劇学科校友の

集い」として開催することが、下記の通り内定しました。

□演劇学科創設70周年記念パーティ(仮称)

期日：2019年9月28日(土)午後(開始時刻未定)

場師：新宿西口・京王プラザホテル

※開始時刻、会費、参加方法等の詳細が決まり次第、本欄、郵便、SNS等によりご通知致しますので、どうかご予約の上、ふるってご参加下さいま

すようお願い申し上げます。

■後期実習発表のご案内

2018年度後期の舞台発表の日程が下記の通り決定致しました。演目・開演時間などの詳細は決定次第演劇学科ホームページでお知らせ致します。いずれも入場無料ですが、要予約となっております。お申込はホームページまで。

会場は ▽江古田校舎・中ホール

▼所沢校舎アートセンター・ブラックボックス
 ▽総合実習ⅢB(3、4年洋舞)
 10月5日(金)～6日(土)
 ▼総合実習ⅠA(2年演劇)
 「桜の園」
 10月11日(木)～13日(土)
 ▼総合実習ⅠD(2年演劇)
 「なぜか青春時代」

10月25日(木)～27日(土)
 ▼総合実習ⅠB(2年洋舞)
 11月9日(金)～10日(土)
 ▽卒業制作(演劇)
 「THE BEE」
 11月16日(金)～18日(日)
 ▽総合実習ⅡC(3年日舞)
 11月23日(金)～24日(土)
 ▽卒業制作(日舞)

12月1日(土)～2日(日)
 ▽卒業制作(洋舞)
 12月8日(土)～9日(日)
 ▼総合実習ⅠC(2年日舞)
 12月15日(土)
 ▽総合実習ⅢA(3年演劇)
 12月20日(木)～22日(土)

放送ブロック



□長崎放送・村山仁志アナ
 NBC長崎放送『あさから!』でパーソナリティをつとめる村山仁志さん(平成4年放送学科卒)が、第55回ギャラクシー賞のラジオ部門・DJパーソナリティ賞を受賞しました。ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が日本の放送文化の質的向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設された賞です。

□中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

練馬区と放送学科が共同で実施している情報教育推進事業“中学生のための「情報番組制作ワークショップ」”が今年も開催されました。第9回目の今回は、練馬区在住の中学生17名が集まり、放送学科主任・鈴木康弘教授の指導のもと6月30日から8月4日のうちの9日間に渡って行われました。このワークショップは、企画立案から番組完成までの一連の作業を中学生が実践的に取り組むことで、メディア・リテラシーを学ぶこと、職業体験を行うことを目的としています。最終日の8月4日にはV1スタジオで収録が行われ30分の情報番組を制作しました。8月8日には、完成した番組の上映会と鈴木教授の講演会が行われ、参加

した中学生だけではなく、多く的一般の方々も聴講されました。

■計報

この3月、永年にわたり放送学科の教育にご尽力いただいた横山隆治先生、新堀俊明先生がお亡くなりになりました。横山先生は放送学科の黎明期から教鞭をとられ、脚本実習を中心に多くの学生の指導にあたっていただきました。新堀先生はTBSでアナウンサー、報道記者として活躍された後、専任教員に着任され、アナウンス実習や放送報道論をご担当いただきました。学科の発展にも大きく貢献していただいたお二人に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

デザインブロック



デザイン学科の専任教員に布目幹人氏が就任しました
 これまで非常勤の講師としてプロモーションデザインの演習やゼミナールを担当されてきた布目幹人先生(H11年度卒)が4月からデザイン学科の専任講師となり、1年次の基礎デザイン教育から2年次以降のグラフィック・プロモーションデザインの専門科目に至



るまで指導されることになりました。布目先生は本学を卒業後に広告代理店勤務を経て独立。数々の広告賞を受賞したり、地域ブランド構築に貢献したりと広告デザインの分野で広く活躍してきました。これからは、持ち前のユーモアとデザインのセンスを生かし、後進の育成に力を発揮されるものと期待されています。

第3回「日本学生BtoB新聞広告大賞」にて3年生が入賞しました
 一般社団法人 日本BtoB広告協会が主催する第3回「日本学生BtoB新聞広告大賞」にて浅井菜摘さん、門奈望美さん(3年生)の作品が入賞しました。

・浅井菜摘さん(3年)「岡村製作所協賛企業賞」

・門奈望美さん(3年)「JNC株式会社協賛企業賞」

企業協賛賞は、金、銀、銅につづく賞で、入賞11点のうち、2点が日藝デザイン学科の学生が入賞するという結果となりました。表彰式は6月にホテルグランドパレスにておこなわれました。

卒業生の斉藤潤也さんが絵本を出版しました
 ラインスタンプで人気が出た犬のキャラクター「もっさりもさお」の絵本が双葉社から出版されました。著者は、イラストレーターとして活躍中の斉藤潤也さん(2018年卒)です。斉藤さんは大学卒業後、すぐイラストレーターとして活動されており、今後の更なる活躍が期待されます。

CSデザイン賞にて赤城安奈さん(3年)が銀賞を受賞しました

中川ケミカルが主催するカッティングシートの可能性を追求するコンペCSデザイン賞学生部門でデザイン学科3年の赤城杏奈さん(3年)が、銀賞を受賞しました。今回の学生部門は、「渋谷駅前エリアマネジメント協議会SHIBUYA +FUN PROJECT」の協力のもと、渋谷駅周辺地域で大規模に行われている再開発の工事現場仮囲いに、カッティングシートを使ってどのようなデザイン提案をするかが課題でした。

応募点数:309点

主催:中川ケミカル

「JAGDA学生グランプリ2018」大和田なるみさん(4年)が入選

日本グラフィックデザイナー協会主催の「JAGDA学生グランプリ2018」で、デザイン学科4年の大和田なるみ

さんが入選しました。このコンペは、日本国内の高等学校、専門学校、大学、大学院に在籍している人を対象に「手」をテーマにポスター作品を募集されました。応募総数1,527作品(累計2,102枚)の中から入選作品は144点。入選に届きませんでした。次点では、阿部果穂さん、岩崎真也さん、森麻美子さん(全員3年生)が選ばれています。入賞・入選作品(144作品)を展示する展覧会が2018年9月28日(金)～10月14日(日)の期間、東京ミッドタウン・デザインハブでおこなわれました。

山外董さん(3年)がブックカバーコンテストで大賞を受賞しました

朝霞市の書店チエノワブックストアが主催する第6回ブックカバーコンテスト大賞作品で、デザイン学科3年の山外董さんが大賞を受賞しました。タイトルは「ふとした宇宙」。山外さんの作品展示が8月の間、コンペ主

催のチエノワブックストア(埼玉県朝霞市)でおこなわれました。

釜山国際広告祭にてクリスタル賞を受賞

今年の8月22日～26日に韓国・釜山で開催された釜山国際広告祭(AD STARS)の学生コンペティション部門(Young Stars)に日藝デザイン学科有志の3チームが参加し、その中の1チーム(村上実紗子さん、榎本風香さん、清水美里さん/全員2年生)が、見事、クリスタル賞(金、銀、銅に続く)を受賞しました。

同部門は現地で提示された課題に対して、30時間の制限時間内に広告のアイデアを提案するというもので、予選を勝ち抜いた全世界の大学から40チーム程が参加。「銀行のアプリを既存のキャラクターを使って10代～20代に促進させる」という課題に取り組みました。

～校友会事務局よりお知らせ～

住所等変更のお手続きはメールでも受け付けております。
お名前、卒業学科、卒業年度をご明記のうえ、下記校友会事務局までご連絡ください。

ekoda.koyu@gmail.com

校友会事務局・星野

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、グラフィックデザイン全般を受け持つ。
(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。本年は石ノ森章太郎先生の生誕80周年記念企画として、宮城・ふるさと記念館でちばてつや先生との二人展「大相撲マンガ場所」展が開催中(～10月21日)。
また、来年春には、秋田・増田まんが美術館のリニューアルオープンに向け、内装デザインを進行中!!
スタジオ・マイ ☎03-5999-8611
スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

編 集 後 記

平成最後の夏休み、江古田校舎西棟には工事の音が鳴り響いています。平成31年度からの江古田通年化を控え、所沢から引っ越してくる芸術教養過程や語学の研究室を増設する工事です。まさに所沢校舎の歴史は平成とともにありました。(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部

日本大学芸術学部校友会報 第101号

2018年秋季号●平成30年10月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 田上竣詞
- 広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
茅原良平 長瀬浩明

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

- 表紙

昭和54年度美術学科卒(現デザイン学科)
氏名:荒井良二
タイトル:山のヨーナ
技法:銅版画

2019年度一般入学試験A方式について

一般入学試験A方式第1期

【第1週】

学科	試験日	試験場所
写真学科	2月5・6日(火・水)	芸術学部 江古田校舎
美術学科		
音楽学科	2月5・6・7日(火・水・木)	
演劇学科	2月5・6日(火・水)	
放送学科	一次 2月5日(火) 二次 2月8日(金)	

【第2週】

学科	試験日	試験場所
映画学科	2月12・13日(火・水)	芸術学部 江古田校舎
美術学科		
文芸学科	2月12日(火)	
デザイン学科	2月12・13日(火・水)	

一般入学試験A方式第2期

学科	試験日	試験場所
写真学科	3月5日(火)	芸術学部 江古田校舎
映画学科	3月5・6日(火・水)	
美術学科		
音楽学科	3月5日(火)	
文芸学科		
演劇学科	3月5・6日(火・水)	
放送学科	一次 3月5日(火) 二次 3月8日(金)	
デザイン学科	3月5・6日(火・水)	

入試博覧会について

日時	2019年3月17日(日) 10:00~16:00 (予約不要・入退場自由)
会場	芸術学部江古田校舎
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ●個別進学相談コーナー 各学科の教員が個別に受験生の相談にお答えします。 美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします。 ●事務局による総合相談コーナー 学生生活や就職、試験に関する総合的な相談や、編入学・転部試験についてお答えします。 ●ビデオ上映コーナー (映画、演劇学科実技試験参考VTR)

※当日は日藝の卒博を実施していますので、学生の卒業作品やキャンパスの雰囲気もご覧いただけます。

入試情報に関する詳細は芸術学部ホームページをご確認ください。
 日本大学芸術学部ホームページ <http://www.art.nihon-u.ac.jp>

